

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	21-015	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Associations of education and income with hazardous drinking among postpartum women in Japan: results from the TMM BirThree Cohort Study 日本の産後女性における教育歴および所得と危険飲酒との関連：東北メディカルメガバンクと三世代コホート研究の結果より		
<b>執筆者</b>		
Murakami K, Ishikuro M, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Metoki H, Obara T, Kuriyama S.		
<b>掲載誌</b>		
Environ Health Prev Med. 2021 Jul 3;26(1):70. doi: 10.1186/s12199-021-00991-9.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
教育、危険飲酒、所得、日本、産後の女性		34217215
<b>要旨</b>		
<p><b>目的：</b>教育歴・所得の高い女性で危険飲酒の割合が高いことが多くの先進国から報告されている一方、日本では、教育歴の低い女性で危険飲酒の割合が高く、所得と危険飲酒の関連はみられないことが報告されている。しかし、産後女性を対象とした研究は数が少なく結果も一貫していない。本研究では、日本の産後1年以内の女性における、教育歴・所得と危険飲酒との関連について明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>方法：</b>東北メディカルメガバンクと三世代コホート調査のデータを用いて、11,031人の女性を対象とした。ロジスティック回帰分析を用い、教育歴（高校以下/短期大学・専門学校/大学以上）・等価世帯所得（四分位に分類）による産後1年時点の危険飲酒（平均純アルコール20g/日以上）のオッズ比（ORs）、95%信頼区間（CI）を算出した。また、同様の分析を教育歴、所得で層別して行った。</p> <p><b>結果：</b>産後1年時点では3.6%の女性が危険飲酒をしていた。教育歴が高校以下の産後危険飲酒ORs（95%CI）は、大学以上と比較して2.17（1.59-2.98）と有意に高かった。等価世帯所得の最高四分位群と比較した最低四分位群の危険飲酒ORs（95%CI）は1.42（1.04-1.94）と有意に高かったが、この関連は教育歴を調整後、消失した（ORs: 1.12, 95%CI: 0.81-1.54）。層別解析の結果、低所得群（第2四分位以下）でのみ教育歴と危険飲酒リスクとの関連を認め、教育歴の低い群（短期大学/専門学校以下）でのみ所得と危険飲酒リスクとの関連を認めた。</p> <p><b>結論：</b>教育歴、所得は産後女性の危険飲酒リスクと関連した。これらの結果は、産後の危険飲酒予防への効果的な介入方法の立案につながる可能性がある。</p>		